

「STEAM型（開発型）」課題研究 発表ルーブリック

【発表チェックリスト】

- ①スライドは「1スライド1メッセージ」を意識し、シンプルに作られている。  
 ②原稿を読まずにプレゼンができている。  
 ③スライドではなく、発表者が主役のプレゼンができている。

↓チェック

<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>

プレゼン内容	項目	評価基準			
		1：★	2：★★	3：★★★	4：★★★★
		努力が必要	目標に一部到達	目標に到達	目標以上に到達
1 オープニング (問題解決の重要性)	① OP	「誰のどんな課題を解決するか」及び、その問題解決の重要性が伝わるデータ・事実が示されていない。	「誰のどんな課題を解決するか」及び、その問題解決の重要性が伝わるデータ・事実が示されていたものの、 <u>解決する価値のある問題であるとは思えなかった。</u>	「誰のどんな課題を解決するか」及び、その問題解決の重要性が伝わるデータ・事実が示されており、 <u>解決する価値のある問題であることが納得できた。</u>	「誰のどんな課題を解決するか」及び、その問題解決の重要性が <u>切実に</u> 伝わるデータ・事実が示されており、 <u>解決することに大きな価値があるという認識が深まった。</u>
	② 開発理由	「なぜ開発を行うのか」が説明されていない。	既存のサービスや先行研究で解決できていない課題が曖昧で、「なぜ開発を行うのか」がわからない。	既存のサービスや先行研究（他の人が以前に行った研究）を2つ以上挙げ、解決できていない課題を明確にした上で、「なぜ開発を行うのか」が説明されている。	十分な量の既存のサービスや先行研究を調べ、解決できていない課題を明確にした上で、「なぜ開発を行うのか」が説明されている。
2 目的	③ コンセプト	「コンセプト」が説明されていない。	「どのような特徴（コンセプト）をもつモノやサービスを開発するのか」が説明されているが、特徴が曖昧でわかりにくい。	「どのような特徴（コンセプト）をもつモノやサービスを開発するのか」が明確に説明されている。	3に加えて、新規性が高い（これまでにないモノやサービスである）。
	④ 方法	「使用した技術や仕組み」が説明されていない。	「使用した技術や仕組み」が説明されているが、写真や図がなく、どのような技術を用いて開発したかがイメージできない。	「使用した技術や仕組み」が写真や図を用いて説明されており、どのような技術を用いて開発をしたかがイメージできる。	3に加えて、聴衆が無理なく理解できるように提示の仕方が工夫されている。
3 方法	⑤ 採用理由	「なぜその方法を採用したのか」が説明されていない。	「なぜその方法を採用したのか」が説明されているものの、他の方法が検討されていない。	2つ以上の方法を検討した上で、「なぜその方法を採用したのか」を説明しており、理由も納得できる。	複数の方法を十分検討した上で明確な理由に基づいて使用する方法を選択している。
	⑥ 完成度	「開発したモノやサービス」が提示されていない。	「開発したモノやサービス」が提示されているが、実際に使用して評価できるレベルではない。	「開発したモノやサービス」が提示されており、実際に使用してテスト可能なプロトタイプ（試作品）が完成している。	「開発したモノやサービス」の完成度が高く、社会実装可能なレベルである。
4 結果	⑦ 評価	「開発したモノやサービス」の評価を行っていない。	開発したモノやサービスを研究メンバーで使用して、有用性を評価している。	開発したモノやサービスを少なくとも1人のユーザーに使ってもらい、有用性を評価している。	複数のユーザーから客観性のあるデータを習得して、有用性を評価している。
	⑧ 考察	今後の改善点を説明していない。	今後の改善点を説明しているが、そもそも開発が不十分である。	「開発」を通して考察し、今後の改善点を説明している。	「開発」や「評価」を通して考察し、今後の改善点を明確にしている。
5 考察	⑨ 結論	結論が説明されていない。	結論が説明されているものの、本研究の成果や意義が曖昧でわかりにくい。	結論が説明されており、本研究の成果や意義が明確に示されている。	3に加えて、さらなる発展性や展望についても説明されている。
6 結論	プレゼンはここまで 以下、全体の観点				
7 【全体観点】 学際的 見方・考え方の活用	⑩ 学際	学際的な見方で柔軟な課題解決手法を活用した場面が、説明からはよく分らなかった。	課題発見や課題解決の場面で、学際的な見方で柔軟な課題解決手法を特に活用していなかった（1つの手法のみで結論を導こうとしていた）。	課題発見や課題解決の場面で、学際的な視点で柔軟な課題解決手法を用いて（少なくとも2つの手法を組み合わせ）、探究を行っていた。	課題発見や課題解決の場面で、学際的な見方で柔軟な課題解決手法を十分に活用し（3つ以上の手法を組み合わせ）、それらを効果的に結びつけながら探究を深めていた。

【分野にとらわれず、柔軟に課題解決手法を選択】

人文・社会科学的手法：文献・資料調査、フィールドワーク（実地調査）、心理学的指標、アンケート、インタビュー、アート、デザイン 等  
 自然科学的手法：観察・実験・センシング（センサー等を活用した物理量測定）、開発、定式化（現象を数式で表す）、理論計算 等  
 データサイエンス的手法：統計データ解析、シミュレーション、AI・機械学習、テキストマイニング、プログラミング、デジタルものづくり 等